



東京理科大学

維持会レター

第43号

vol.43 2026.1

ご住所などの変更があった場合は、下記まで必ずご連絡ください。

募金・維持会についての問い合わせ先

学校法人東京理科大学 募金事業事務室

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3
TEL 03-5228-8723 (ダイヤルイン) FAX 03-3260-4363
<e-mail>bokinjigyo@admin.tus.ac.jp
<URL><https://www.tus.ac.jp/donation/purpose/>

募金について



維持会について



新年あけましておめでとうございます。維持会会員の皆様におかれましては、日頃より本学の教育・研究に温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

本学は2031年に創立150周年という大きな節目を迎えます。本年は「中期計画2026」の最終実行年度にあたり、その実現に向けて、これまで以上に改革を加速してまいります。

その集大成の一つとして、この4月には、東京理科大学として実に33年ぶりとなる新学部「創域情報学部」が開設されます。また、科学コミュニケーションを冠する日本初の学科である、理学部第一部「科学コミュニケーション学科」も新たに誕生いたします。これに伴い、各キャンパスにおいて、施設の再構築や研究設備の高度化など、教育・研究環境の整備を順次進めております。

さらに、キャンパス再構築などのハード面の改革と併せて、学生が経済的理由により修学を断念することのないよう、奨学金等の支援制度の一層の充実にも取り組んでまいります。

皆様から賜りました貴重なご厚志につきましては、今後も教育・研究のさらなる発展のために有効に活用してまいります。引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

昨年、本学へのご寄付にキャッシュレス決済サービス「PayPay」を導入いたしました。広く普及している新たな決済サービスを導入することにより、より多くの皆様に手軽にご支援いただけるようになりましたので、ご協力いただければ幸いです。

また、本学は卒業生を中心としたステークホルダーの皆様との繋がりを一層強化するため、昨年11月にメールマガジン「東京理科大学Newsletter／TUS Connect」を創刊いたしました。理科大の最新ニュースやイベント情報など、「今」と「これから」を感じていただける内容をお届けしてまいりますので、是非ご登録ください。

結びに、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

維持会会員の皆様 明けましておめでとうございます。皆様には日頃より本学へのご寄付並びに様々な場面でのご協力を賜り心より厚く御礼申し上げます。

本学の創立は明治14年(1881)、その4年後に維持会(当時は維持同盟)は発足しております。創立間もない学校の経済的基盤は弱く、学生の集まりも少ない上に勉学は厳しく卒業できる者は一桁という状況が続きました。自然災害にも遭い、これでは教育のための必要経費など賄えるはずもありませんでした。「理学の普及をもって国運発展の基礎となす」という建学の精神の実現を目指す理念も潰えるかという時に創立者たちは団結し、私財を出し合って学校の継続を計りました。

現在でいうサスティナビリティです。この経緯は、秋山先生が昨年著された『月桂冠は君の頭上に輝く』の中に創立者の揺るがない建学の情熱とともに記されています。2031年に創立150周年を迎える東京理科大学は日本の大学の歴史上第一世代(明治期～1959年に創立)に分類されています。

さて、現在の日本が抱える教育上の問題の一つは先進国の中において理工系を目指す学生が少ないということで、解決策が模索されております。建学の精神はいま国からも強く求められているといっても良いと思います。

本学は理工系総合大学として多くの理工系人材を育成し、社会に送り出しています。創立者たちが団結して身を切つてまで目指した建学の精神は今も本学の中に立派に生き続けていることを感じます。

近代科学資料館では、創立者たちの功績をたどる企画の第3弾として、明治の京都で活躍し地域の教育に貢献した3人の建学者たちの企画展が開催されました。

今後、創立150周年に向けて本学の記念事業が実施されていきますが、それはあくまで通過点であり、東京理科大学が社会に貢献していく姿勢は、創立以来これまでも、そしてこれからも続いていくものであり、その役割を維持会も担っているのだと思います。

東京理科大学維持拡充資金としてご寄付いただきました寄付金は教育研究推進や奨学金などとして国内ばかりでなく世界に向けて発展していく原資として活用させていただいています。

どうぞ次のステージに向かっていく我が大学にご支援とご協力をいただけますようお願い申し上げます。



学校法人 東京理科大学 理事長
浜本 隆之



東京理科大学 維持会 会長
酒井 陽太

第93回 常任維持会報告

東京理科大学維持会は、東京理科大学創立者の先生方からの寄付によって財政の苦難を乗り越えた遺徳にちない、大学の維持及び発展に寄与することを目的とした組織です。

維持会は、東京理科大学維持会会則にもとづき、常任維持会を設置し運営しております。常任維持会の構成員は、栄誉会員及び特別会員のうちから10名以内を、理事長が理事会の議を経て委嘱することになっており、2025年5月現在8名の方が常任維持会員として委嘱されております。常任維持会は、年2回開催され、法人の維持及び発展に寄与する活動に関する事、維持会会員に関する事、寄付者に対する顕彰に関する事などを審議しております。

2025年12月9日に開催された第93回常任維持会について、主な点を報告いたします。



1. 維持会会員承認について

2025年4月1日から2025年9月30日の間に寄付された新規会員249名と追加寄付689件について報告があった。

2. 顕彰者について(2025年4月1日～2025年9月30日)

特別会員に4名が昇格及び入会したことの報告があった。

特別会員	：小島 保彦 様	昭和30年理学部第二部化学科卒
	植村 昭夫 様	昭和44年理学部第二部物理学科卒
	熊谷 輝雄 様	元教職員
	遠山 和久 様	昭和44年理学部第二部化学科卒

【常任維持会】

会長	酒井 陽太				
副会長	岡本 公爾	加藤 和詳			
会員	秋山 仁	梶原 巡	宗政 信傑	望月 圭一郎	吉本 成香
(任期: 2024年12月28日から2028年12月27日まで)					

12/9
開催報告

東京理科大学維持会 募金報告会・懇親会

2025年12月9日(火)PORTA神楽坂にて、募金報告会・懇親会が開催され、本学関係者を含め44名の方が出席しました。

冒頭に、理事長より寄付者の方々へ母校への多大な貢献に感謝する旨の挨拶のあと、本学の現状説明があり、その後酒井維持会会長より母校創設の歴史及び維持会の現状報告がありました。

懇親会では和やかな雰囲気の中、親しく懇談が行われ、会の途中では、冠奨学金受給学生の代表者から、奨学金で得られた学業成果の披露もありました。美しい思い出を追想しながら、校歌を斉唱し、垣根を越えて寄付者の方々の絆を深める貴重な時間にもなりました。



学生の皆さんのさらなる飛躍のために
維持会では引き続き支援を行ってまいります。

【維持拡充資金（第二期）寄付額】

(2025年4月1日~2025年9月30日)

個人	30,313,000 円
団体	500,000 円
こうよう会	10,765,480 円
法人	1,150,000 円
合計	42,728,480 円

【2024年度 維持拡充資金（第二期）寄付総額】

(2024年4月1日~2025年3月31日)

個人	82,360,917 円
団体	5,535,467 円
こうよう会	28,201,000 円
法人	430,685,357 円
合計	546,782,741 円

秋山仁先生
渾身の力作『月桂冠は君の頭上に輝く』
第1章つづきをご紹介します！

理科大の創設者のひとりである寺尾寿先生について書かれた、『月桂冠は君の頭上に輝く』の第1章の一部を維持会レター42号で掲載いたしました。今回はその第二弾！第1章のつづきをご紹介します。

2031年に本学は創立150周年を迎えます。改めて本学の歴史について想いを馳せてみてはいかがでしょうか。



第1章 実力主義と理科大のDNA

§3. 実力のない卒業生を世に出してはいけない

建学者の一人であり、第三代校長を務めた中村恭平(1855-1934)は、物理学校の誕生から50年間の歴史を次のように綴っている。

『明治1881年(明治14年)に物理学講習所を建学して以来、創立者十数名は諸々の困難に遭遇し、ともに辛酸を嘗めましたが、縁を頼って他者に物質的援助を求ることを良しとせず、やせ我慢しながらもより強い契りを結んで、経費の持寄りから授業その他諸般の事務に至るまですべて自分たち自身で担当し、不撓不屈の精神で幾多の難関を凌ぎ奮闘努力を続けました。』(『東京物理学校五十年小史』より)。

開講した当初、まず大変だったのが、学生が集まらないことだった。そもそも理学の有り難みがわかっていない世の中なのだから、それも当然だった。日本の物理学の父とされる長岡半太郎(1865-1950)は1882年に東大の理学部に進学しているが、その彼でさえ、「物理学は男子一生の仕事に値する分野であろうか。国に尽くすためには、法学や政治学の道に進んだ方がよいのではないかと悩んだということからも、その当時、理学を学びたい人を集めるのがいかに難しかったのかが伺える。

物理学講習所開校以来、最初の5年位は入学者の数が20名、40名、・・・、100名だったのに対して、1年間通してやっと1科目か2科目修学できた者が1名とか数名という状況が続いた。そのような状況も当時の日本の状況を鑑みれば無理もなく、江戸時代の日本の庶民の平均識字率は世界に比べて高かったとはいえ、日本の義務教育の制度が導入されたのが1872年(明治5年)で、全国に津々浦々、小学校がつくられたのが1886年

(明治19年)であり、現在の中学卒業レベルの数学や理科の基礎知識を持っている人が世の中で圧倒的に少なかったのだから、微分積分を使った重力学や熱学等を教えることが、どれほど茨の道であったのか、想像に難くはない。“学生をより多く集める

ために、卒業基準を緩くして、より多くの卒業生を出そうか”という案が出たこともあったそうだが、「実力の無いまま世の中に卒業生を送り出すようないい加減なことをするのであれば、大変な思いをしてこの学校を開校している意義はない」という建学者たちの強い思いがあったがゆえ、安易な道は選ばず、奮闘努力によって“実力主義を学是とする学校”を実現していく道を選んだのだった。1906年(明治39年)に出版された夏目漱石の『坊っちゃん』の主人公・坊っちゃんは“物理学校卒業の数学教師”という設定だが、生来の無鉄砲で損なことばかりの人生を歩んできた自分が物理学校を留年することなく既定の3年間で卒業できることがわかった時に、「不思議なもので、三年たったらとうとう卒業してしまった。自分でも、おかしかったが、(学校に)苦情を言う訳(理由)もないから、大人しく卒業しておいた」と感想を述べているシーンがある。こんなシーンが描かれたのも、「物理学校は卒業するのが極めて難しい学校だ」と世間から周知



夏目漱石(Wikipediaより)

坊っちゃんの塔
2014年7月2日 建立(平戸貢児作)

されていたからに他ならない。

『坊っちゃん』の原稿(複製)
1906(明治39)年 夏目漱石著§4. 師から生徒たちに引き継がれた DNA
—自助と不撓不屈の精神—

若い建学者たちにのしかかった苦労は、上記の知的・肉体的労働のみならず、経済的な負担も相当だった。「建学者たちは無報酬で教壇に立っていましたが、校舎の賃貸費、光熱費、消耗品費等の雑費で、学費から足が出て毎月4,50円(現在に換算して約80万円から100万円)の赤字が出る始末で、それらは建学者が負担して賄った。」(『東京物理学校五十年小史』より)。

そのうえ、清水の舞台から飛び降りる覚悟で、巨額の資金を出し合って現在の西神田3丁目の借地に新築した校舎が一年も経たずして1884年9月の台風の影響を受けて倒壊してしまうという絶望的な憂き目に遭ったのだった。そんな幾多の難関を不撓不屈の精神で建学者たちは乗り越えてきたのだ。

開校から十数年たって、入学者数も毎年安定して300人位、全科目を修了した卒業生も約20名輩出できるようになった時に開かれた卒業式(明治28年(1895)2月17日)で、来賓者濱尾新(帝国大学校長)の演説の中の言葉が“東京理科大学という学校のDNAがどのようなものであるのか”を如実に物語っているように思う。

『(前略)このように種々の非常なる困難を経ながらも(物理学校の建学者たちは)休むことなく尽力され続け、理学の教科をみごとに整備し、数多くの生徒を養成し

卒業生を出すに至り、遂に今日のような盛況を迎えたことは誠に喜ばしいことと思います。そして、今しがた寺尾校長から伝えられましたように当時の卒業生一同が報徳会を設立し、資金を抛出しあって物理の実験器材数十点を購入して当校に寄付されると聞いて、建学者たちのこれまでの苦労を思い出すとともに、このような苦労と熱意が生徒たちにも伝播しているのだと非常に感心致しました。実に、このような良き師があるからこそ良い弟子が育つのであって、今後益々師弟相まって東京物理学校の隆盛に努め、学術の進歩を図っていかれることを強く希望しております。』

中村恭平の言葉を借りると、『建学者たちの熱誠に動かされ、他より招聘された講師も献身的に生徒の教授に当たり、また同窓会員も種々母校の後援を行ない、これら協力一致し精励努力する姿を見て、自然と生徒たちは感化され、師弟の情誼(友人、師弟間で誠意をもって付き合おうとする気持ち)が極めて濃く、生徒たちが思想堅実で向学の心が篤いという、一種独特な学風が醸成されていったのがこの50年の歴史であります。』(『東京物理学校五十年小史』より意識)。このようなDNAが脈々と受け継がれ、現在に存在しているのが東京理科大学なのである。

こちらの本を購入したい方は、神楽坂キャンパス内紀伊国屋書店または本学のオリジナルグッズの制作・販売をしている TUS ONLINE STOREよりご購入いただくことが可能です。

皆さまもぜひお買い求めいただき、理学を日本に根づかせ普及させた東京物理学校の歴史的役割と、それを成し遂げた建学者たちのリーダー格であった寺尾寿の見事な生き方をぜひ読んでください。

TUS ONLINE STOREは
こちらから ▶
(<https://tus-online.com/>)



維持会奨学金を受給した学生からのメッセージ

2024年度に学生 111名に対して、30,500,000円の奨学金を給付しました。今回は維持会奨学金を受給した学生から感謝のメッセージが寄せられましたので、皆さまの温かいご厚志に対する感謝の気持ちと、将来への志を持って懸命に勉学に励む姿をご紹介します。

今後とも、本学の発展にご理解とご賛同をいただき、格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

受給した奨学金はどのように利用されましたか

創域理工学研究科 建築学専攻 1年

私は、フランスのナント市を対象に、文化事業による都市再編について研究しているため、現地調査のための渡航費や旅費等に当てました。奨学金のおかげで、修士研究が始まってすぐに現地に行くことができたため、実際にその町を歩き、取り組みや事業について現地で学ぶことができたことに大変感謝しています。

創域理工学研究科 社会基盤工学専攻 1年

奨学金は研究に必要な学会参加費、専門書・資料の購入、解析環境の整備などに幅広く活用しました。ご支援により経済的負担が軽減され、学業と研究により深く継続的に取り組むことができました。

先進理工学研究科 電子システム工学専攻 1年

奨学金は、研究で用いる書籍や、資格試験の教材と受験費用に充てることができ、学びの幅を広げる大きな助けとなりました。奨学金のおかげで、経済面を理由に学びを制限することなく、より主体的に研究と資格取得に挑戦することができました。

いま大学で力を注いでいること

理学研究科 物理学専攻 1年

私は、古地磁気を利用して火砕流・岩屑なだれの発生機構を解明する研究に力を注いでいます。熱残留磁化と粘性残留磁化を用いて移動履歴や年代を推定し、過去の災害履歴を復元しています。有珠山を対象に発生時期やプロセスに制約を与える結果を得ました。岩屑なだれや火砕流は発生頻度が低く、有史以前の事例も対象としています。将来的には火山災害のリスク評価に役立つ技術として発展させたいと考えています。

工学研究科 機械工学専攻 1年

液体ロケットエンジンで発生する燃焼振動と呼ばれる異常燃焼のメカニズム解明に向けて、力を注いで取り組んでいます。「燃焼振動」は燃焼器内の圧力が増加・振動する異常燃焼であり、燃焼器の破損を招くため原因解明が課題となっています。私は燃焼振動の「発生源の特定」を目的に、JAXAと共同でロケットエンジンを対象としたシミュレーションデータの解析を行っています。本年度からは、スパコンも活用して様々な解析手法を適用したビッグデータ解析を行っています。また、今後は英語論文の執筆や学会発表も行っていく予定です。

創域理工学研究科 経営システム工学専攻 1年

現在は、機械学習を用いた医用画像解析の研究に力を入れて取り組んでおります。特に、脳動脈瘤治療を支援するための画像解析技術の開発を進めており、アルゴリズムの改良や実データを用いた性能評価に注力しています。また、共同研究だけでなく、実際の企業での就業体験を通じた現場の理解、TAとしての教育支援にも力を入れており、幅広い技術理解とコミュニケーション力の向上を意識して日々学びを深めています。社会へ実装できる成果を目指し、今後も研究活動に取り組んでまいります。

支援をくださった方へメッセージ

理学研究科 科学教育専攻 1年

この度はご支援をいただき誠にありがとうございます。この奨学金の存在は大学院への進学を決断する上で大きな助けとなりました。現在私は高校の数学教諭を目指し、よりよい理系分野の教育を行うための手段について研究しております。大学院での学びを社会に活かせるよう精進して参ります。今後とも応援のほどよろしくお願いいたします。

工学研究科 機械工学専攻 1年

この度は、維持会奨学金奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。頂いた資金で快適な作業環境を実現することができましたので、今後、日本の航空宇宙産業および東京理科大学の発展に貢献できるよう研究に取り組んで参ります。今後ともよろしくお願いいたします。

創域理工学研究科 先端物理学専攻 1年

日頃より温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。皆様の支えによって学業と研究に専念でき、貴重な経験を積むことができています。今後も学びや研究活動に注力し、将来は得た知識や経験を社会へ還元し、人々の暮らしをより豊かにする技術や価値の創出に貢献できるよう、一層励んでまいります。

奨学金を受給した学生からの感謝のメッセージは、このほかにも多数寄せられており、**本学ホームページでも紹介しております。**引き続き、ご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

メッセージページはこちら



寄付の詳細はこちら



2025年度 寄付者の名前を冠した奨学金(冠奨学金)

- ◆ 渡辺一之奨学金
- ◆ 大澤賢一奨学金
- ◆ 関智弘奨学金
- ◆ 白井康雄奨学金
- ◆ 森野義男奨学金
- ◆ 細川斉子奨学金
- ◆ 宗政信傑奨学金
- ◆ 鶴田禎二奨学金
- ◆ 機械工学科奨学金
- ◆ 夢太陽奨学金
- ◆ 服部奨学金
- ◆ 鶴志会奨学金
- ◆ ADEKA 奨学金
- ◆ サードウェーブ奨学金

※都合により、一部編集して掲載しております。 ※2025年度の所属・学年を掲載しています。

お知らせ

PayPay 寄付 いよいよスタート!



2025年11月より、インターネット寄付でPayPayがご利用いただけるようになりました!スマートフォンからでも簡単にご寄付のお申し込みが可能です。



オープンカレッジ 無料受講の特典



2026年1月~12月までの1年間に、10万円以上のご寄付を賜った寄付者の皆様は、「東京理科大学オープンカレッジ」2027年度講座の中から1講座を無料で受講できます。(語学の講座は対象となりません) 理科大ならではの「最先端の知」、互いに学びあう「共創の場」を体験してみませんか。



2025年度「ホームカミングデー 20th」 in 葛飾キャンパス 参加報告!

秋を感じるようになった2025年10月19日(日)、葛飾キャンパスにてホームカミングデー20thが開催され、約10年ぶりに基金事業事務局が参加いたしました。卒業周年記念祝賀懇親会や同窓会への場に、大学イメージキャラクターの坊ちゃん、マドンナちゃんが登場し、会場を盛り上げてくれました! 寄付者の皆さまにお会いできたこと、本学をいつも応援して下さっていることへの感謝の気持ちを直接お伝えすることができ、大変嬉しく思いました。実際に募金箱も設置して、皆さまから心温まるご寄付も賜りました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

